



ワイヤレス テクノロジーの設定

- [AP 上で最適化されたモニタ モードを使用したタグ付きアセットの追跡 \(2 ページ\)](#)
- [ワイヤレス チョークポイントの設定 \(3 ページ\)](#)
- [統合 AP の管理 \(4 ページ\)](#)
- [Autonomous AP の管理 \(8 ページ\)](#)
- [アクセス ポイント XOR アンテナの設定 \(15 ページ\)](#)
- [AP オンボーディング プロファイルの設定 \(18 ページ\)](#)
- [アクセス ポイントの検索 \(21 ページ\)](#)
- [ワイヤレス設定グループ \(23 ページ\)](#)
- [メッシュ ネットワークにおけるリンクの表示 \(26 ページ\)](#)
- [コントローラの不正 AP 分類ルールの定義 \(27 ページ\)](#)
- [コントローラの自動プロビジョニングを使用した WLC の追加と置換 \(27 ページ\)](#)
- [AP オンボーディング プロファイルの設定 \(29 ページ\)](#)
- [9800 シリーズ構成モデルに関する情報 \(33 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Cisco Umbrella ポリシーのローカルドメインの設定 \(37 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Cisco Umbrella ポリシーの設定 \(38 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに Flex Sxp プロファイルを設定します \(38 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに Flex プロファイルを設定します \(39 ページ\)](#)
- [Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Airtime Fairness の設定 \(39 ページ\)](#)
- [Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのリモート LAN \(RLAN\) の設定 \(41 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ上でルールを展開する \(42 ページ\)](#)
- [Cisco AireOS コントローラ設定を Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラに変換する \(43 ページ\)](#)

AP上で最適化されたモニタ モードを使用したタグ付きアセットの追跡

タグのモニタリングとロケーション計算を最適化するには、アクセスポイントの 2.4 GHz 帯 (802.11b/g 無線) 内で、最大4つのチャンネルに対して Tracking Optimized Monitor Mode (TOMM) を有効にします。これによって、タグが機能するようにプログラミングされているチャンネルだけを対象にチャンネルスキャンを実行できます (チャンネル1、チャンネル6、チャンネル11など)。

アクセスポイントレベルでモニタモードを有効にした後、TOMMを有効にして、そのアクセスポイントの 802.11b/g 無線にモニタチャンネルを割り当てる必要があります。

アクセスポイント無線で TOMM を有効にして、モニタチャンネルを割り当てるには、次の手順を実行します。

-
- ステップ1 アクセスポイントレベルでモニタモードを有効にしたら、**[設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)]** を選択します。
 - ステップ2 **[アクセスポイント (Access Points)]** ページで、適切なアクセスポイントの **[802.11 b/g 無線 (802.11 b/g Radio)]** リンクをクリックします。
 - ステップ3 **[一般 (General)]** グループボックスで、チェックボックスをオフにして **[管理ステータス (Admin Status)]** を無効にします。無線が無効になります。
 - ステップ4 **[TOMM]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、モニタモードの AP の場合のみ表示されます。設定可能な4つのチャンネルそれぞれにドロップダウンリストが表示されます。
 - ステップ5 アクセスポイントによるタグのモニタを有効にする4つのチャンネルを選択します。

(注) モニタ対象として4つすべてのチャンネルを選択する必要はありません。モニタリングチャンネルを削除するには、チャンネルのドロップダウンリストから **[なし (None)]** を選択します。
 - ステップ6 **[保存 (Save)]** をクリックします。チャンネル選択が保存されます。
 - ステップ7 **[無線パラメータ (Radio parameters)]** ページで、**[管理ステータス (Admin Status)]** チェックボックスをオンにして無線を再度有効にします。
 - ステップ8 **[保存 (Save)]** をクリックします。これで、アクセスポイントが TOMM アクセスポイントとして設定されました。

[モニタ (Monitor)] > [アクセスポイント (Access Points)] ページに、AP モードが **[モニタ/TOMM (Monitor/TOMM)]** と表示されます。
-

ワイヤレス チョークポイントの設定

ワイヤレス チョークポイントの作成

チョークポイントを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [チョークポイント (Chokepoints)] の順に選択します。

ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから [チョークポイントの追加 (Add Chokepoints)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 チョークポイントの MAC アドレスと名前を入力します。

ステップ 4 これが [Entry/Exit Chokepoint] であることを示すには、チェックボックスを選択します。

ステップ 5 チョークポイントのカバレッジ範囲を入力します。

チョークポイントの範囲は、視覚的な表示のみです。これは製品固有です。実際の範囲は、該当するチョークポイント ベンダー ソフトウェアを使用して別個に設定する必要があります。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

データベースにチョークポイントを追加したら、適切な Prime Infrastructure フロア マップに配置できます。

ネットワークからのワイヤレス チョークポイントの削除

チョークポイントを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [チョークポイント (Chokepoints)] の順に選択します。

ステップ 2 削除するチョークポイントのチェックボックスを選択します。

ステップ 3 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから [チョークポイントの削除 (Remove Chokepoints)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 4 [OK] をクリックして削除を確認します。

統合 AP の管理

コンフィギュレーション

AP をメンテナンス状態にする

アクセス ポイントをメンテナンス ステートに移行するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [アクセス ポイント無線 (Access Points Radio)] をクリックします。

[統合アクセス ポイント (Unified Access Points)] ページが表示されます。

ステップ 2 [統合 AP 無線 (Unified AP Radio)] タブで、目的の AP デバイスを選択し、[設定 (Configure)] > [メンテナンス状態にする (Place in Maintenance State)] をクリックします。

アクセス ポイントがメンテナンス ステートに移行されます。

アクセス ポイントがメンテナンス ステートに移行されると、アクセス ポイント ダウンアラームは、重大よりも低い重大度で処理されます。

(注) メンテナンス状態にあるアクセス ポイント ダウンアラームの重大度を下げると、アラーム通知ポリシーの状態が「重大なイベント」であった場合でも、Prime Infrastructure によりアラーム通知メールが送信されるのを防ぐことはできません。

メンテナンス状態からの AP の削除

アクセス ポイントをメンテナンス ステートから削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [アクセス ポイント無線 (Access Points Radios)] をクリックします。

[統合 AP ラジオ (Unified AP Radio)] ページが表示されます。

ステップ 2 [統合 AP 無線 (Unified AP Radio)] タブで、目的の AP デバイスを選択し、[設定 (Configure)] > [メンテナンス状態から削除 (Remove from Maintenance State)] をクリックします。

アクセス ポイントがメンテナンス状態から削除されます。

スケジューリング (Scheduling)

AP 無線ステータス変更のスケジュール設定

無線ステータスの変更スケジュールを設定する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ1 [設定 (Configuration)] > [アクセス ポイント無線 (Access Points Radios)] をクリックします。
- ステップ2 [Unified AP 無線 (Unified AP Radio)] タブで、目的の AP を選択し、[[スケジュール (Schedule)] > [無線ステータスのスケジュール (Schedule Radio Status)] をクリックします。
- ステップ3 [管理ステータス (Admin Status)] ドロップダウンリストから、[有効 (Enable)] または [無効 (Disable)] を選択します。
- ステップ4 [時 (Hours)] および [分 (Minutes)] ドロップダウンリストを使用して、スケジュール時間を決定します。
- ステップ5 カレンダー アイコンをクリックして、ステータス変更の予定日を選択します。
- ステップ6 タスクを周期的に繰り返して実行する場合は、[毎日 (Daily)] または [毎週 (Weekly)] を選択します。タスクを一度だけ実行する場合は、[繰り返しなし (No Recurrence)] を選択します。
- ステップ7 [保存 (Save)] を選択して、スケジュール設定したタスクを確定します。
-

スケジュール済み AP 無線ステータス変更の表示

現在スケジュール設定されている無線ステータスタスクを表示する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ1 [設定 (Configuration)] > [アクセス ポイント無線 (Access Points Radios)] をクリックします。
- ステップ2 [Unified AP 無線 (Unified AP Radio)] タブで、目的の AP を選択し、[[スケジュール (Schedule)] > [View Schedule Radio Task(s) (無線タスクのスケジュールの表示)] をクリックします。
- スケジュール設定済みのタスクに関する次の情報が表示されます。
- [スケジュール済みタスク (Scheduled Task(s))]: そのアクセス ポイントとアクセス ポイント無線を表示するタスクを選択します。
 - [スケジュール済み無線管理ステータス (Scheduled Radio admin Status)]: ステータス変更 ([有効 (Enable)] または [無効 (Disable)]) を示します。
 - [スケジュール時刻 (Schedule Time)]: スケジュール タスクの発生時間を示します。
 - [実行ステータス (Execution status)]: タスクがスケジュール設定されているかどうかを示します。
 - [繰り返し (Recurrence)]: タスクが繰り返し実行されるようにスケジュール設定している場合は、その周期 ([毎日 (Daily)] または [毎週 (Weekly)]) を示します。
 - [次の実行 (Next Execution)]: タスクの次の実行日時を示します。
 - [最終実行日時 (Last Execution)]: タスクの最後の実行日時を示します。

8. [スケジュール解除 (Unschedule)]: スケジュール設定されているタスクをキャンセルする場合は、[スケジュール解除 (Unschedule)] をクリックします。[OK] をクリックして、キャンセルを確定します。

メンテナンス状態における AP のアラームの表示

Prime Infrastructure は、クリティカルアラームを使用して、管理対象アクセスポイントがダウンしているかどうかを追跡します。コントローラは、次のことが発生した場合に、3つの異なるアラームを送信します。

- アクセスポイントがダウンになる
- アクセスポイントの無線 A がダウンになる
- アクセスポイントの無線 B/G がダウンになる

リリース 7.0.172.0 以降では、これらの3つのアラームは単一のアラームにグループ化されます。

アクセスポイントの技術メンテナンス中は、クリティカルアラームの優先順位付けを解除する必要があります。アクセスポイントのアラームの重大度の優先順位付けを解除するには、**[設定 (Configure)] > [アクセスポイント (Access Points)]** ページを使用します。アクセスポイントをメンテナンスステートに移行すると、そのアクセスポイントのアラームステータスは黒色で表示されます。

AP イーサネット インターフェイスの設定

イーサネット インターフェイスを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 **[設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)]** の順に選択します。

ステップ 2 **[AP 名 (AP Name)]** の下のリンクをクリックして、そのアクセスポイント名についての詳細情報を表示します。**[アクセスポイントの詳細 (Access Point Detail)]** ページが表示されます。

(注) **[アクセスポイントの詳細 (Access Point Details)]** ページに、イーサネット インターフェイスのリストが表示されます。

ステップ 3 **[インターフェイス (Interface)]** の下のリンクをクリックすると、そのインターフェイスに関する詳細情報が表示されます。**[イーサネット インターフェイス (Ethernet Interface)]** ページが表示されます。

このページには、次のパラメータが表示されます。

- **[AP の名前 (AP Name)]**: アクセスポイントの名前。
- **[スロット ID (Slot Id)]**: スロット番号を示します。
- **[管理ステータス (Admin Status)]**: アクセスポイントの管理状態を示します。
- **[CDP ステート (CDP State)]**: CDP ステートを有効にするには、**[CDP ステート (CDP State)]** チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

CSV ファイルのインポートによる AP の設定

現在のアクセスポイントのコンフィギュレーションファイルをインポートするには、次の手順を実行します。



(注) これを使用して、AP 名、プライマリ、セカンダリ、およびターシャリア コントローラの詳細、AP ロケーションを一括で設定できます。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [統合 AP 無線 (Unified AP Radio)] ページで、該当する AP を選択し、[インポート/エクスプローラー (Import / Export)] > [AP 設定のインポート (Import AP Config)] をクリックします。

ステップ 3 テキストボックスに CSV ファイルのパスを入力するか、[参照 (Browse)] をクリックして、コンピュータで CSV ファイルにナビゲートします。

CSV ファイルの最初の行は、含まれている列の説明に使用されます。[AP イーサネット MAC アドレス (AP Ethernet Mac Address)] 列は必須です。このページのパラメータは、CSV ファイルで定義されていない列に使用されます。

ファイルヘッダーの例：

例：

```
AP Name,Ethernet MAC,Location,Primary Controller,Secondary Controller,Tertiary Controller
ap-1, 00:1c:58:74:8c:22, sjc-14-a, controller-4404-1, controller-4404-2, controller-4404-3
```

CSV ファイルには、次のフィールドを含めることができます。

- [AP イーサネット MAC アドレス (AP Ethernet MAC Address)] : 必須
- [AP 名 (AP Name)] : 省略可能
- [ロケーション (Location)] : 省略可能
- [プライマリ コントローラ (Primary Controller)] : 省略可能
- [セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)] : 省略可能
- [ターシャリア コントローラ (Tertiary Controller)] : 省略可能

省略可能フィールドは空のままにできます。[AP 設定のインポート (AP Config Import)] は、空の省略可能フィールド値を無視します。ただし、primaryMwar と secondaryMwar エントリが空の場合は、ユニファイドアクセスポイントの更新は完了していません。

- [イーサネット MAC (Ethernet MAC)] : AP イーサネット MAC アドレス
- [AP 名 (AP Name)] : AP 名
- [ロケーション (Location)] : AP ロケーション

- [プライマリ コントローラ (Primary Controller)] : プライマリ コントローラ名
- [セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)] : セカンダリ コントローラ名
- [ターシャリ コントローラ (Tertiary Controller)] : ターシャリ コントローラ名

(注) 省略可能フィールドは空のままにできます。[AP 設定のインポート (AP Config Import)] は、空の省略可能フィールド値を無視します。ただし、プライマリ コントローラおよびセカンダリ コントローラのエントリが空の場合は、統合アクセスポイントの更新は実行されません。

ステップ 4 適切な CSV ファイルのパスが [CSV ファイルの選択 (Select CSV File)] テキスト ボックスに表示されたら、[OK] をクリックします。

アクセスポイントでの CDP の設定

Cisco Discovery Protocol (CDP) は、すべてのシスコ製ネットワーク機器で実行されるデバイス検出プロトコルです。各デバイスはマルチキャストアドレスに識別メッセージを送信し、他のデバイスから送信されたメッセージをモニタします。



(注) CDP は、デフォルトでイーサネットと、ブリッジの無線ポートで有効です。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 ソフトウェア リリース 5.0 以降のコントローラに関連付けられたアクセスポイントを選択します。

ステップ 3 CDP を有効にする無線またはイーサネット インターフェイスの スロット をクリックします。

ステップ 4 インターフェイスで CDP を有効にするには、[CDP ステート (CDP State)] チェックボックスを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

Autonomous AP の管理

Prime Infrastructure から、自律アクセスポイントを追加するには、次の方法があります

デバイス情報を使用した自律 AP の追加

デバイス情報によって Autonomous アクセスポイント を Prime Infrastructure に追加するには、カンマ区切りの IP アドレスとクレデンシャルを使用します。

Cisco Autonomous アクセスポイントには、工場出荷時にデフォルトのイネーブルパスワード *Cisco* が設定されています。ユーザはこのパスワードを使用して、非特権モードにログインし、

show および debug コマンドを実行することができますが、これはセキュリティに対する脅威となります。不正アクセスを防止し、ユーザがアクセス ポイントのコンソール ポートからコンフィギュレーション コマンドを実行できるようにするには、デフォルトのイネーブルパスワードを変更する必要があります。

デバイス情報を使用して Autonomous アクセス ポイントを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ネットワーク (Network)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] の順にクリックします。
- ステップ 2 [+] アイコンをクリックして、ドロップダウンメニューから [デバイスの追加 (Add Device)] を選択します。
- ステップ 3 [全般 (General)] タブで、Cisco アクセス ポイントの IP アドレスを入力します。DNS 名によって追加する場合は、DNS 名を追加します。
- ステップ 4 [SNMP] タブで、Cisco アクセス ポイントで作成した SNMP のバージョンを選択します。
- ステップ 5 SNMP v1 または v2c を使用する場合は、AP で設定された読み取り/書き込みコミュニティ ストリングを記述する必要があります。SNMP v3 を使用している場合は、以下を設定する必要があります。
 - [ユーザ名 (Username)]
 - [モード (Mode)]
 - 認証タイプ (Auth.Type)
 - 認証パスワード (Auth.Password)
 - Privacy タイプ
 - プライバシー パスワード (Privacy Password)
- ステップ 6 [Telnet/SSH] タブで、Telnet/SSH パラメータを設定します。
- ステップ 7 [HTTP/HTTPS] タブで HTTP クレデンシャルを指定して、Cisco Prime Infrastructure がそこからデータを収集できるようにします。
 - [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [HTTP] または [HTTPS] を選択します。TCP ポートは、選択したプロトコルのデフォルト ポートに自動的に変更されます。
 - [TCPポート (TCP Port)] テキスト ボックスで、デフォルトを上書きする場合は、別の TCP ポートを入力します。
 - ユーザの名前を入力します。
 - パスワードを入力し、そのパスワードを確認します。
 - モニタのユーザ名およびパスワードを入力し、そのパスワードを確認します。
- ステップ 8 [追加 (Add)] をクリックします。

AP が追加され、インベントリの収集が完了すると、Autonomous AP リスト ページ ([設定 (Configuration)] > [ネットワーク (Network)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] > [デバイス タイプ (Device Type)] > [自律 AP (Autonomous AP)]) に表示されます。Autonomous AP リスト にない場合は、[設定 (Configuration)] > [ネットワーク (Network)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] > [デバイス タイプ (Device Type)] > [不明なデバイス (Unknown Devices)] ページを選択して、ステータスを確認します。

(注) Autonomous アクセス ポイントは、ライセンスの合計デバイス数に含まれません。

CSV ファイルを使用した自律 AP の追加

Autonomous アクセス ポイントを Prime Infrastructure に追加するには、WLSE からエクスポートした CSV ファイルを使用します。

CSV ファイルを使用して Autonomous アクセス ポイントを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ネットワーク (Network)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] の順に選択します。
- ステップ 2 [+] アイコンをクリックし、[一括インポート (Bulk Import)] オプションを選択します。
- ステップ 3 [参照 (Browse)] をクリックして、システムから CSV ファイルを選択します。
- ステップ 4 [Import] をクリックします。

CSV ファイルを使用した自律 AP の一括更新

CSV ファイルをインポートすることで、複数の Autonomous アクセス ポイントのクレデンシャルを更新できます。

Autonomous アクセス ポイント情報を一括で更新するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。
- ステップ 2 [Autonomous AP 比率 (Autonomous AP Radio)] ページで、目的の AP のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [AP の一括更新 (Bulk Update APs)] をクリックします。
[Autonomous アクセス ポイントの一括更新 (Bulk Update Autonomous Access Points)] ページが表示されます。
- ステップ 4 [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックして CSV ファイルを選択し、インポートする CSV ファイルの場所を見つけます。
- ステップ 5 [更新と同期 (Update and Sync)] をクリックします。

自律 AP の一括更新用のサンプル CSV ファイル

次に、V2 デバイス用の CSV ファイルの例を示します。

```
ip_address, network_mask, snmp_version, snmp_community, snmpv3_user_name, snmpv3_auth_type,
```

```
snmpv3_auth_password, snmpv3_privacy_type,  
snmpv3_privacy_password, snmp_retries,  
snmp_timeout, telnet_username, telnet_password, telnet_retries, telnet_timeout  
209.165.200.224, 255.255.255.224, v2, public, , , , , 3, 4209.165.201.0, 255.255.255.0, v2, public, , , , , 3, 4, Cisco, Cisco, 2, 10
```



(注) SNMP、telnet、または SSH クレデンシャルは必須です。

次に、V3 デバイス用の CSV ファイルの例を示します。

```
ip_address, network_mask, snmp_version, snmpv3_user_name, snmpv3_auth_type,  
snmpv3_auth_password, snmpv3_privacy_type,  
snmpv3_privacy_password, snmp_retries,  
snmp_timeout, telnet_username, telnet_password, telnet_retries,  
telnet_timeout 209.165.200.224, 255.255.255.224, v3, default, HMAC-MD5, default, None, , 3, 4209.165.201.0, 255.255.255.224, v3,  
default1, HMAC-MD5, default1, DES, default1, 3, 4, Cisco, Cisco, 2, 10
```

CSV ファイルには、次のフィールドを含めることができます。

- ip_address
- network_mask
- snmp_version
- snmp_community
- snmpv3_user_name
- snmpv3_auth_type
- snmpv3_auth_password
- snmpv3_privacy_type
- snmpv3_privacy_password
- snmp_retries
- snmp_timeout
- telnet_username
- telnet_password
- enable_password
- telnet_retries
- telnet_timeout

Prime Infrastructure からの自律 AP の削除



(注) 何らかの理由により、Autonomous アクセス ポイントを交換する場合は、代替のアクセス ポイントをネットワークにインストールする前に Prime Infrastructure から Autonomous アクセス ポイントを削除します。

Prime Infrastructure から Autonomous アクセス ポイントを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 削除するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。関連付けられていない AP を選択します。
- ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから、[AP の削除 (Remove APs)] を選択します。

自律型 AP の表示

Autonomous アクセス ポイントが追加されると、[Monitor]>[Access Points] ページに表示されます。

Autonomous アクセス ポイントをクリックすると、次のような詳細が表示されます。

- アクセス ポイントの操作ステータス
- 無線情報、チャンネル、電力、無線上のクライアント数などの主要な属性
- CDP 近隣情報

Autonomous アクセス ポイントは、[モニタ (Monitor)]>[マップ (Maps)] でも表示できます。

Autonomous アクセス ポイントをフロア領域に追加するには、[モニタ (Monitor)]>[マップ (Maps)] [フロア領域 (floor area)] を選択して、[コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウン リストから [アクセスポイントの追加 (Add Access Points)] を選択します。

TFTP を介した自律 AP へのイメージのダウンロード

Lightweight アクセス ポイント イメージは、コントローラ イメージにバンドルされており、コントローラによって管理されます。Autonomous アクセス ポイント イメージは、WLSE、CiscoWorks、または Prime Infrastructure などの NMS システムで処理する必要があります。

TFTP を使用してイメージを Autonomous アクセス ポイントにダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)]>[ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)]>[アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [Autonomous AP 比率 (Autonomous AP Radio)] イメージをダウンロードする Autonomous アクセス ポイントのチェックボックスを選択します。

[AP Type] 列には、Autonomous と Lightweight のいずれのアクセス ポイントであるかが表示されます。

ステップ 3 [ダウンロード (Download)] > [自律 AP イメージ (TFTP) のダウンロード (Download Autonomous AP Image (TFTP))] をクリックします。

[Autonomous AP へのイメージのダウンロード (Download images to Autonomous APs)] ページが表示されま

ず。

ステップ 4 次のパラメータを設定します。

- [ファイルの格納場所 (File is located on)] : [ローカル マシン (Local machine)] または [TFTP サーバ (TFTP server)] を選択します。
- [サーバ名 (Server Name)] : デフォルト サーバを選択するか、[サーバ名 (Server Name)] ドロップダウン リストから新しいサーバを追加します。
- [IP アドレス (IP address)] : TFTP サーバの IP アドレスを指定します。デフォルトのサーバを選択した場合は、これが自動的に入力されます。
- [Prime Infrastructure サーバ ファイルの場所 (Prime Infrastructure Server Files In)] : Prime Infrastructure サーバ ファイルのある場所を指定します。デフォルトのサーバを選択した場合は、これが自動的に入力されます。
- [サーバ ファイル名 (Server File Name)] : サーバ ファイル名を指定します。

ステップ 5 [ダウンロード (Download)] をクリックします。

ヒント 一部の TFTP サーバでは、32 MB を超えるファイルはサポートされません。

FTP を介した自律 AP へのイメージのダウンロード

イメージを自律型アクセスポイントに (FTPを使用して) ダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [Autonomous AP 比率 (Autonomous AP Radio)] イメージをダウンロードする Autonomous アクセス ポイントのチェックボックスを選択します。[AP Type] 列には、Autonomous と Lightweight のいずれのアクセス ポイントであるかが表示されます。

ステップ 3 [ダウンロード (Download)] > [自律 AP イメージ (FTP) のダウンロード (Download Autonomous AP Image (FTP))] をクリックします。

[Autonomous AP へのイメージのダウンロード (Download images to Autonomous APs)] ページが表示されま

ず。

ステップ 4 ユーザ名とパスワードを含む FTP クレデンシャルを入力します。

ステップ 5 [Download] をクリックします。

ワークグループブリッジ (WGB) モードの自律 AP の表示

Workgroup Bridge (WGB) モードは、Autonomous アクセスポイントがワイヤレスクライアントとして機能して、Lightweight アクセスポイントに接続する特殊なモードです。AP モードが [ブリッジ (Bridge)] に設定され、アクセスポイントがブリッジ対応である場合、WGB とその有線クライアントは、Prime Infrastructure にクライアントとしてリストされます。

WGB であるすべての Prime Infrastructure クライアントのリストを表示するには、[モニター (Monitor)] > [クライアント (Clients)] を選択します。[表示 (Show)] ドロップダウンリストから [WGB クライアント (WGB Clients)] を選択して、[実行 (Go)] をクリックします。[クライアント (WGB として検出) (Clients (detected as WGBs))] ページが表示されます。ユーザをクリックして、特定の WGB とその有線クライアントに関する詳細な情報を表示します。



(注) Prime Infrastructure は、Autonomous アクセスポイントが Prime Infrastructure によって管理されているかどうかにかかわらず、Autonomous アクセスポイントの WGB クライアント情報を提供します。WGB アクセスポイントも Prime Infrastructure によって管理されている場合、Prime Infrastructure は他の Autonomous アクセスポイントに類似したアクセスポイントに対する基本的なモニタリング機能を提供します。

自律 AP の詳細のエクスポート

現在のアクセスポイントのコンフィギュレーションファイルをエクスポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択します。

ステップ 2 [コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから、[AP 設定のエクスポート (Export AP Config)] を選択します。

すべての Unified AP が CSV/EXCEL/XML ファイルにエクスポートされることを示すポップアップアラートボックスが表示されます。

ステップ 3 [OK] をクリックして、ポップアップアラートボックスを閉じます。

ステップ 4 次のものを含む現在の AP 設定を表示するには、[実行 (Go)] をクリックします。

- a) AP 名
- b) イーサネット MAC (Ethernet MAC)
- c) 参照先
- d) プライマリ コントローラ (Primary Controller)
- e) セカンダリ コントローラ (Secondary Controller)

f) ターシャリ コントローラ (Tertiary Controller)

ステップ 5 アクセスポイント設定をエクスポートするには、ファイルオプション (CSV、Excel、XML) を選択します。

ステップ 6 [ファイルのダウンロード (File Download)] ウィンドウで、[保存 (Save)] をクリックしてファイルを保存します。

アクセスポイント XOR アンテナの設定

Prime Infrastructure には、特定のアンテナの使用を有効または無効にする機能があります。デフォルトでは、すべてのアンテナが有効になっています。

[設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [アクセスポイントの無線 (Access Point Radios)] の順に選択し、[無線 (Radio)] 列で [XOR (2.4 GHz) (XOR(2.4GHz))] または [XOR (5 GHz) (XOR(5GHz))] を選択すると、次のページが表示されます。

このページには、次のフィールドがあります。



(注) いずれかのフィールドを変更すると、無線が一時的に無効になり、一部のクライアントの接続が失われる場合があります。

一般

- [AP 名 (AP Name)] : アクセスポイントのオペレータ定義名。
- [AP ベース無線 MAC (AP Base Radio MAC)] : アクセスポイントのベース無線の MAC アドレス。
- [スロット ID (Slot ID)] : スロット ID。
- [管理ステータス (Admin Status)] : アクセスポイントの管理状態を有効するには、このボックスを選択します。
- [CDP状態 (CDP State)] : CDPを有効にするには、[CDP状態 (CDP State)] チェックボックスをオンにします。
- [コントローラ (Controller)] : コントローラの IP アドレス。詳細については、コントローラの IP アドレスをクリックします。
- [サイト設定 ID (Site Config ID)] : サイトの識別番号。
- [CleanAir 対応 (CleanAir Capable)] : アクセスポイントが CleanAir 対応かどうかが表示されます。
- [CleanAir] : ドロップダウンで、[両方無効 (Both Disabled)]、[5 GHz 有効 (5GHz Enabled)]、[2.4 GHz 有効 (2.4 GHz Enabled)]、および [両方有効 (Both Enabled)] から任意のオプションを選択します。

無線割り当て

- [割り当て方式 (Assignment Method)] : 割り当て方式は、[自動 (Auto)]、[運用 (Serving)]、または [モニタ (Monitor)] です。



(注) [帯域選択 (Band Selection)]、[RF チャネル割り当て (RF Channel Assignment)]、および [送信電力レベル割り当て (Tx Power Level Assignment)] は、[運用 (Serving)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます。

- [帯域選択 (Band Selection)] : [2.4 GHz] または [5 GHz] いずれかの無線を選択できます。

アンテナ

[無線割り当て (Radio Assignment)] の選択内容に応じて、次のパラメータが表示されます。

- [アンテナ タイプ (Antenna Type)] : アンテナ タイプ [外部 (External)] または [内部 (Internal)] を示します。
- [XOR A アンテナ (XOR A Antenna)] : ([自動 (Auto)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。
- [XOR B アンテナ (XOR B Antenna)] : ([自動 (Auto)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。
- [外部アンテナ (External Antenna)] : ([運用 (Serving)] および [モニタ (Monitor)] 割り当て方式の場合にのみ表示されます)。ドロップダウンリストから [外部アンテナ (external antenna)] または [その他 (Other)] を選択します。ドロップダウンの値は、2.4 GHz 無線と 5 GHz 無線で異なります。
- [アンテナゲイン (Antenna Gain)] : ([運用 (Serving)] および [モニタ (Monitor)] 割り当て方式の場合に表示されます)。テキスト ボックスに望ましいアンテナ ゲインを入力します。カスタム アンテナ ゲインを設定するには、[外部アンテナ (External Antenna)] オプションで [その他 (Others)] を選択します。



(注) 無線ネットワーク アダプタに接続される指向性アンテナのピーク ゲイン (dBi)、および全方向性アンテナの平均ゲイン (dBi)。ゲインは 0.5dBi の倍数で表します。整数値 4 は、 $4 \times 0.5 = 2\text{dBi}$ のゲインであることを意味します。

RF チャネル割り当て

次の [802.11a RF チャネル割り当て (802.11a RF Channel Assignment)] パラメータは、無線割り当て方式として [運用 (Serving)] を選択した場合にのみ表示されます。

- [現在のチャネル (Current Channel)] : アクセス ポイントのチャネル番号。

- [チャンネル幅 (Channel Width)] : 2.4 GHz 無線の場合は 20 MHz の無線のみがサポートされます。5 GHz 無線の場合は、[チャンネル幅 (Channel Width)] ドロップダウンリストから [20 MHz]、[40 MHz]、[80 MHz]、または [160 MHz] を選択します。
- [割り当て方式 (Assignment Method)] : 次のいずれかを選択します。
 - [グローバル (Global)] : アクセスポイントのチャンネルがコントローラによってグローバルに設定される場合は、この設定を使用します。
 - [カスタム (Custom)] : アクセスポイントのチャンネルがローカルで設定されている場合は、この設定を使用します。[カスタム (Custom)] ドロップダウンリストからチャンネルを選択します。ドロップダウンの値は 2.4 GHz 無線と 5 GHz 無線で異なります。

11n および 11ac のパラメータ

- [11n をサポート (11n Supported)] : 802.11n 無線がサポートされているかどうかを示します。
- [11ac をサポート (11ac Supported)] : 802.11ac 無線がサポートされているかどうかを示します。

パフォーマンス プロファイル

[URL] をクリックして、このアクセスポイントのインターフェイスのパフォーマンスプロファイルパラメータを表示または編集します。

- [ClientLink] : インターフェイスごとにアクセスポイントの無線のクライアントリンクを有効または無効にします。この機能は、従来の (直交周波数分割多重) OFDM レートのみでサポートされます。インターフェイスでは ClientLink がサポートされる必要があり、OFDM レートを有効にする必要があります。また、複数のアンテナを送信可能にして、3 つすべてのアンテナを受信可能にする必要があります。



- (注) サポートされるクライアントの最大数は 15 です。アンテナ設定により操作が 1 本の送信アンテナに制限されている場合、あるいは OFDM レートが無効になっている場合、ClientLink は使用できません。

送信電力レベル割り当て

- [現在の送信電力レベル (Current Tx Power Level)] : 現在の送信電力レベルを示します。
- [割り当て方式 (Assignment Method)] : 次のいずれかを選択します。
 - [グローバル (Global)] : 電力レベルがコントローラによってグローバルに設定されている場合は、この設定を使用します。
 - [カスタム (Custom)] : アクセスポイントの電力レベルがローカルで設定されている場合は、この設定を使用します。ドロップダウンリストから電力レベルを選択します。

11n アンテナ選択

Prime Infrastructure には、特定のアンテナの使用を有効または無効にする機能があります。デフォルトでは、すべてのアンテナが有効になっています。



(注) 少なくとも1つの送信アンテナと1つの受信アンテナが有効である必要があります。すべての送信アンテナおよび受信アンテナを一度に無効にできません。

次のいずれかの [11n アンテナ選択 (11n Antenna Selection)] パラメータを設定します。

- Antenna A (アンテナ A)
- Antenna B (アンテナ B)
- Antenna C (アンテナ C)
- Antenna D (アンテナ D)

[11n] パラメータ

次の [11n] フィールドが表示されます。

- [11n をサポート (11n Supported)] : 802.11n の無線がサポートされているかどうかを示します。
- [クライアントリンク (ClientLink)] : クライアントリンクを有効または無効にするには、このオプションを使用します。ドロップダウンリストから [有効 (Enable)]、[無効 (Disable)]、または [該当なし (Not Applicable)] を選択します。

AP オンボーディング プロファイルの設定

AP が ME コントローラに参加し、検出されると、Prime Infrastructure では、AP を自動的にプロビジョニングできます。AP オンボーディング機能は、このように検出した AP で AP 名および AP グループを自動的に設定します。このプロセスでは、Prime Infrastructure の AP 名および他のコンフィギュレーションパラメータを設定する必要性が削除されるため、クライアントとして機能します。Prime Infrastructure は AP オンボーディング プロファイルを使用して、PI の AP を事前に設定します。

AP オンボーディング サービス プロセス

Prime Infrastructure が新しい AP を検出した場合、または既存の AP との関連性を検出した場合は、この特定の AP のアクティブなオンボーディングプロファイルが存在するかどうかをチェックします。アクティブなプロファイルが検出されると、Prime Infrastructure は次の手順を実行します。

1. プロファイル変更を [処理中 (in-progress)] とマークします。
2. プロファイルの AP 名を設定します。

3. オンボーディング プロファイルに記載されている AP テンプレートを展開します。
4. すべての AP テンプレートが展開されると、プロファイルは完了とマークされ、ステータスが成功または失敗に設定されます。

関連トピック

[AP オンボーディング プロファイル グループの作成](#) (19 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの編集](#) (20 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの削除](#) (21 ページ)

AP オンボーディング プロファイル グループの作成

単一の AP オンボーディング プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [プロファイルを追加 (Add Profile)] をクリックします。

ステップ 3 次の必要な詳細情報を入力します。

- [プロファイルグループ (Profile Group)] (デフォルトでは割り当てなし)
- [イーサネット MAC アドレス/シリアル番号 (Ethernet MAC Address/ Serial Number)]
- [AP 名 (AP Name)] : AP が検出されたときに AP に対して設定する名前。
- [コントローラの選択 (Controller Selection)] : AP がこのコントローラに参加する場合のみ、このプロファイルを適用します。このような制限をしない場合は、[任意 (Any)] を選択します。
- [AP テンプレート (AP Template)] : AP にプッシュする AP テンプレートの名前。AP テンプレートは 3 つまで選択できます。
- [プロファイルモード (Profile Mode)] (デフォルトで有効)

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの一括作成

AP オンボーディング プロファイルを一括アップロードの .csv ファイルで作成するには、次の手順に従います。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [新規プロファイル (New Profile)] > [一括追加 (Bulk Add)] の順にクリックします。

ステップ 3 [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックしてウィザードを開きます。必要な .csv ファイルまで移動して選択します。

[サンプルCSVのダウンロード (Download Sample CSV)] をクリックして、サンプル .csv ファイルをダウンロードします。

ステップ4 既存のエントリを上書きするには、[既存のエントリを上書き (Override Existing Entries)] チェックボックスをオンにします。

ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの編集

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。



(注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは編集または変更できません。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイル グループをクリックします。

ステップ3 編集するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。

ステップ4 [プロファイルの編集 (Edit Profile)] をクリックします。

複数のプロファイルを選択している場合、[AP名 (AP Name)] および [プロファイルモード (Profile Mode)] は編集できません。

ステップ5 必須フィールドを編集して [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの変更

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイル グループをクリックします。

ステップ3 変更するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。

ステップ4 次のタスクから選択します。

- [プロファイルの複製 (Duplicate Profile)] : プロファイルを複製します。

(注) 複数のプロファイルを一斉に複製することはできません。

- [プロファイルの削除 (Delete Profiles)] : プロファイル (1 つまたは複数) を削除します。

- [プロファイルの編集 (Edit Profiles)]: プロファイル (1 つまたは複数) を編集します。
- [プロファイルモード/状態の変更 (Change Profile Mode/Status)]: プロファイル モードを [有効 (Enable)]、[保留中 (Pending)]、または [無効 (Disable)] に変更します。
(注) プロファイルモードを [完了 (Completed)] に変更することと、状態が [進行中 (in-progress)] であるプロファイルのプロファイル モードを変更することはできません。
- [展開 (Deploy)]: プロファイルを展開します。

AP オンボーディング プロファイルの削除

既存の AP オンボーディング プロファイル グループを削除するには、次の手順に従います。



- (注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは削除できません。

手順の概要

1. [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。
2. 削除するプロファイル グループを選択します。
3. [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディングプロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 削除するプロファイル グループを選択します。

ステップ 3 [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)] をクリックします。

アクセス ポイントの検索

カスタム検索を作成して保存するには、ページの右上隅にある検索オプションを使用します。

- [新規検索 (New Search)]: IP アドレス、名前、SSID、または MAC を入力して、[検索 (Search)] をクリックします。

- [保存した検索 (Saved Searches)] : [保存した検索 (Saved Search)] をクリックして、カテゴリ、保存したカスタム検索を選択するか、ドロップダウンリストから他の検索基準を選択します。
- [詳細検索 (Advanced Search)] : 詳細検索では、さまざまなカテゴリとフィルタに基づいてデバイスを検索できます。

[実行 (Go)] をクリックすると、アクセスポイントの検索結果が表示されます (表 1: アクセスポイントの検索結果 (22 ページ) を参照)。

表 1: アクセスポイントの検索結果

フィールド	オプション
[IP アドレス (IP Address)]	アクセスポイントの IP アドレス。
[イーサネット MAC (Ethernet MAC)]	アクセスポイントの MAC アドレス。
AP 名	アクセスポイントに割り当てられた名前。詳細を表示するには、アクセスポイント名の項目をクリックします。
[無線 (Radio)]	アクセスポイントのプロトコルは、802.11a/n または 802.11b/g/n のどちらかです。
[マップ位置 (Map Location)]	キャンパス、ビルディング、またはフロア的位置。
[コントローラ (Controller)]	コントローラの IP アドレス。
[AP タイプ (AP Type)]	アクセスポイントの無線周波数の種類。
[動作ステータス (Operational Status)]	Cisco 無線の動作ステータスを表示します ([アップ (Up)] または [ダウン (Down)]) 。
[アラームステータス (Alarm Status)]	アラームのカラーコードは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 透明 = アラームなし • 赤 = クリティカルアラーム • オレンジ = メジャーアラーム • 黄 = マイナーアラーム
[監査ステータス (Audit Status)]	アクセスポイントの監査ステータス。
シリアル番号 (Serial Number)	アクセスポイントのシリアル番号。
[AP モード (AP Mode)]	ローカル、FlexConnect、モニタ、不正検出、スニファ、ブリッジ、SE 接続などのアクセスポイントモードの役割について説明します。

ワイヤレス設定グループ

ワイヤレス設定グループ ワークフローは、Cisco Prime Infrastructure で使用できる WLAN コントローラ設定グループ機能のワークフローを改良したものです。改良されたワイヤレス設定ワークフローで実現できることは次のとおりです。

- デバイス固有のテンプレートを選擇する。
- 複数のデバイスに複数のテンプレートを展開する。
- PI から複数のワイヤレス テンプレートを監査する。



(注) CLIテンプレートおよびゲストユーザはワイヤレス設定グループから展開することはできません。

新しい設定グループの作成

- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選擇します。
- ステップ 2** 新しい設定グループを作成するには、[作成 (Create)] をクリックします。
[設定グループ ワークフロー (Configuration Group Workflow)] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** [一般設定 (General Configuration)] タブで、設定グループ名を入力して[次へ (Next)] をクリックします。
[テンプレートの選擇 (Select Template)] タブが表示されます。
- ステップ 4** [テンプレートの選擇 (Select Template)] タブで、[デバイス タイプ (Device Type)] として [CUWN] または [CUWN-IOS] と [UA] を選擇します。
- ステップ 5** [テンプレート (Templates)] ツリー ビュー > [マイ テンプレート (My Templates)] から [選擇したテンプレート (Selected Template(s))] グループボックスにテンプレートまたはグループをドラッグアンドドロップします。
[選擇したテンプレート (Selected Template(s))] グループボックスに、[テンプレート (Templates)] ツリービューから追加したテンプレートまたはグループがリストされます。
- ステップ 6** 設定グループを保存してワークフローを終了するには、[保存して終了 (Save and Quit)] をクリックします。
- ステップ 7** 設定グループを保存して選擇したテンプレートを展開するには、[次へ (Next)] をクリックします。
[デバイスの選擇 (Select Devices)] タブが表示されます。
- ステップ 8** [デバイスの選擇 (Select Devices)] タブに、選擇したデバイス タイプに基づいてコントローラがリストされます。
- ステップ 9** [デバイス名 (Device Name)] チェックボックスをオンにし、[展開 (Deploy)] をクリックします。

展開に成功すると、[ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] リスト ページが表示されます。

[ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] ページには、展開されたデバイスに関する次の詳細が表示されます。

- グループ名 (Group Name)
- 最後に展開されたデバイスの数 (Last Deployed Devices Count)
- [テンプレート数 (Templates Count)]
- [最後の展開ステータス (Last Deploy Status)]
 - 未開始 (Not Initiated) : テンプレートがいずれかのデバイスに展開されているかどうかを示します。
 - 成功 (Success) : 該当する IP アドレスに関連する正常なテンプレートの数を示します。
 - 一部成功/失敗 (Partial Success / Failure) : 該当するコントローラへのテンプレートのプロビジョニングが失敗した数を示します。失敗の理由を確認するには、[一部成功/失敗 (Partial Success/Failure)] リンクをクリックします。
- [最後の展開解除ステータス (Last Undeploy status)]
- [最後の監査ステータス (Last Audit Status)]
- [バックグラウンド監査 (Background Audit)] : [オン (On)]/[オフ (Off)] を切り替えてバックグラウンド監査を有効にします。これをオンにすると、このグループに含まれるすべてのテンプレートが、ネットワークとコントローラの監査中にコントローラと対照して監査されます。
- [適用 (Enforcement)] : [オン (On)]/[オフ (Off)] を切り替えて適用を有効にします。[適用 (Enforcement)] をオンにすると、何らかの矛盾が見つかった場合は監査中にテンプレートが自動的に適用されます。
- [最終変更日 (Last Modified On)]
- [最終適用日 (Last Applied On)]

ワイヤレス設定グループでのテンプレートの追加または削除

[設定グループの監査 (Config Groups Audit)] ページを使用すると、コントローラ設定がグループテンプレートに従っているかどうかを確認できます。監査中は、この画面を離れたり、Cisco Prime Infrastructure からログアウトしたりできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。



(注) 監査中は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選択します。

(注) [コントローラリスト (Controller List)] ページで、[コントローラリスト (Controller List)] 列にある情報アイコンをクリックし、次にエクスポートアイコンをクリックすると、設定グループが設定されたコントローラの詳細を含む CSV ファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 [グループ名 (Group Name)] チェック ボックスをオンにし、[編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 3 設定グループ ワークフロー ウィザードで、[テンプレートの選択 (Select Templates)] タブをクリックします。

ステップ 4 [CUWN] または [CUWN-IOS] を選択します。

- [テンプレート (Templates)] ツリー ビューから [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスに、テンプレートまたはグループをドラッグ アンド ドロップします。
- [選択したテンプレート (Selected Template(s))] グループ ボックスに、[テンプレート (Templates)] ツリー ビューから追加した、選択したテンプレートまたはグループがリストされます。

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 [デバイスリスト (Device List)] ページで、設定グループを設定するデバイスを選択します。

ステップ 7 [展開 (Deploy)] をクリックして、選択したコントローラに設定グループを展開します。または、[保存して終了 (Save and Quit)] をクリックして設定します。

[最後に展開された時刻 (Last Deployed Time)] 列には、グループが展開されたコントローラにはタイムスタンプが表示され、グループが設定されただけのコントローラには [展開なし (Not Deployed)] と表示されます。

ワイヤレス設定グループの監査

[設定グループの監査 (Config Groups Audit)] ページを使用すると、コントローラ設定がグループ テンプレートに従っているかどうかを確認できます。監査中は、この画面を離れたり、Cisco Prime Infrastructure からログアウトしたりできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。



(注) 監査中は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [ワイヤレス設定グループ (Wireless Configuration Groups)] の順に選択します。

ステップ 2 [グループ名 (Group Name)] チェック ボックスをオンにし、[監査 (Audit)] をクリックします。[デバイスの選択 (Select Devices)] ページが表示されます。

ステップ 3 [デバイス名 (Device Name)] チェックボックスをオンにし、[監査 (Audit)] をクリックします。レポートが生成され、各コントローラの現在の設定が設定グループのテンプレートと比較されます。レポートには監査ステータス、同期テンプレートの数、非同期テンプレートの数が表示されます。

- [監査ステータス (Audit Status)]
 - [未開始 (Not Initiated)]
 - [成功 (Success)] : 該当する IP アドレスに関連するテンプレートの数が同期しているかどうかを示します。
 - [非同期 (Not In Sync)] : 該当するコントローラへのテンプレートのプロビジョニングが失敗した数を示します。[同期していない (Not In Sync)] をクリックし、詳細を確認します。

メッシュ ネットワークにおけるリンクの表示

メッシュ リンクの詳細には、次のいくつかの方法でアクセスできます。

- Prime Infrastructure ホーム ページで [メッシュ (Mesh)] ダッシュボードをクリックします。
- [モニタ (Monitor)] > [アクセスポイント (Access Points)] の順に選択して、[メッシュリンク (Mesh Links)] タブをクリックしてから、[詳細 (Details)] リンクをクリックします
- Google Earth から KML ファイルをインポートした後で、[APメッシュ (AP Mesh)] リンクをクリックします

ページの上部に、現在の統計、その後に特定の統計の図が表示されます。

- [SNR グラフ (SNR Graph)] : [SNR Up] および [SNR Down] グラフは 1 つのグラフに結合されています。各データ セットは、別の色で表されます。
- [リンクメトリック グラフ (Link Metrics Graph)] : [調整済みリンクメトリック (Adjusted Link Metric)] と [未調整のリンクメトリック (Unadjusted Link Metric)] は 1 つのグラフに結合されています。各データ セットは、別の色で表されます。
- [パケットエラー レート グラフ (Packet Error Rate Graph)] : パケット エラー レートをグラフで表示します。
- [リンク イベント (Link Events)] : リンクの最近 5 つのイベントが表示されます。
- [メッシュのワースト SNR リンク (Mesh Worst SNR Links)] : 最低信号対雑音比 (SNR) リンクが表示されます。
- [AP稼働時間 (AP Uptime)] : これらの統計は、アクセスポイントが頻繁にリブートされるかどうかを判別するために役立ちます。
- [LWAPP 接続所要時間 (LWAPP Join Taken Time)] : これらの統計は、アクセスポイントの追加に要する時間を判別します。
- [ロケーションリンク (Location Links)] : Prime Infrastructure マップまたは Google Earth のロケーションに移動できます。

コントローラの不正 AP 分類ルール の定義

単一の WLC で、不正アクセス ポイントの現在の分類ルールを表示または編集できます。

不正アクセス ポイント分類ルールにアクセスするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configure)] > [コントローラ (Controllers)] を選択します。

ステップ 2 [IP Address] 列で IP アドレスをクリックします。

ステップ 3 左側のサイドバーのメニューから、[セキュリティ (Security)] > [不正 AP のルール (Rogue AP Rules)] を選択します。[不正 AP ルール (Rogue AP Rules)] 画面に、不正アクセス ポイントの分類ルール、ルールタイプ ([悪意のある (Malicious)] または [危険性のない (Friendly)])、およびルールの順序が表示されます。

ステップ 4 ルールの詳細を表示または編集するには、[不正 AP ルール (Rogue AP Rule)] を選択します。

コントローラの自動プロビジョニングを使用した WLC の追加と置換

Prime Infrastructure では、自動プロビジョニングのサポートによって WLAN の展開を簡素化します。自動プロビジョニングを使用すると、Prime Infrastructure で現在の Cisco ワイヤレス LAN コントローラ (WLC) を自動的に新規設定したり、交換したりすることができます。Prime Infrastructure 自動プロビジョニング機能を使用すると、大量のコントローラがあるお客様の展開を簡素化できます。



(注) コントローラの無線および b/g ネットワークは、Prime Infrastructure のスタートアップコンフィギュレーションファイルによって当初は無効になっています。必要に応じて、自動化テンプレートの 1 つとして含まれているテンプレートを使用し、それらの無線ネットワークを有効にできます。

コントローラ自動プロビジョニング リストの表示

[自動プロビジョニングフィルタ (Auto Provision Filters)] ページでは、自動プロビジョニングフィルタを作成して編集することで、Prime Infrastructure による自動プロビジョニングや自動モニタを許可するデバイスのリストを定義できます。

自動プロビジョニングの権限を有効にするには、管理者、ルート、またはスーパー ユーザ ステータスが必要です。ユーザの自動プロビジョニング権限を有効または無効にするには、Prime Infrastructure の [管理 (Administration)] > [ユーザロールおよび AAA ユーザグループ (User Roles & AAA User Groups)] > [グループ名 (group name)] > [許可されているタスクのリスト

(List of Tasks Permitted)] で、許可されているタスクを編集します。各チェックボックスをオンまたはオフにして、これらの権限の有効と無効を切り替えます。

フィルタ パラメータは次のとおりです。

パラメータ	説明
Filter Name	フィルタの名前を識別します。
Filter Enable	フィルタが有効かどうかを示します。 有効にしたフィルタだけを自動プロビジョニング プロセスに追加できます。
モニタのみ (Monitor Only)	選択した場合、このフィルタで定義された Cisco WLC は Prime Infrastructure で管理されますが、自動プロビジョニング処理中に Cisco WLC が Prime Infrastructure と通信する場合、Prime Infrastructure で設定されることはありません。
Filter Mode	このフィルタの検索モード ([Host Name]、[MAC Address]、または [Serial Number]) を示します。
Config Group Name	設定グループの名前を示します。 自動プロビジョニング フィルタで 사용되는すべての設定グループで、コントローラが定義されているはなりません。

コントローラの自動プロビジョニング フィルタの作成

自動プロビジョニング フィルタ コンテンツを指定するには、アプリケーションに直接詳細を入力するか、CSV ファイルから詳細をインポートします。自動プロビジョニング機能は、5500 シリーズのコントローラと 5500 シリーズ以外のコントローラをサポートしています。5500 シリーズ以外のコントローラでは、AP マネージャ インターフェイスのコンフィギュレーション情報が定義されているのに対し、5500 シリーズのコントローラにはこの情報はありません。

自動プロビジョニング フィルタを追加するには：

-
- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [WLAN コントローラの自動プロビジョニング (WLAN Controller Auto Provisioning)] を選択します。
- ステップ 2** [コマンドの選択 (Select a Command)] ドロップダウン リストから [フィルタの追加 (Add Filter)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** 必須パラメータを入力します。
- 動的インターフェイス コンフィギュレーションとデバイス固有コンフィギュレーションの詳細は、CSV ファイルを入力するときのみ指定します。これら 2 つは、グラフィカルユーザインターフェイスでは設定できません。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

デフォルトのユーザ名とパスワードを変更するには、ステップ 5～8 の説明に従って、管理ユーザを削除してから再作成する必要があります。

- ステップ 5** デフォルトのユーザ名とパスワードを変更するには、ローカル管理ユーザテンプレートを使用して、コントローラに新規の読み取り/書き込みユーザを作成する必要があります。ステップ 6 に示すように、新しいユーザを作成し、デフォルトの管理ユーザを削除できるようにする必要があります。
- ステップ 6** [インベントリ (Inventory)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [ネットワーク デバイス (Network Devices)] を選択し、[設定 (Configuration)] タブをクリックした後、[管理 (Management)] > [ローカル管理ユーザ (Local Management User)] を選択して管理ユーザを選択します。その後、[コマンドの選択 (Select a command)] ドロップダウンリストから [ローカル管理ユーザの削除 (Delete Local Management User)] を選択して [実行 (Go)] をクリックします。
- ステップ 7** ローカル管理ユーザ テンプレートを使用して、コントローラに新しい管理ユーザを作成します。
- ステップ 8** ステップ 5 で作成したユーザを削除します。

コントローラの自動プロビジョニングに使用されるプライマリキーの検索順序の制御

[プライマリ検索キー設定 (Primary Search Key Setting)] を使用して、一致条件の検索順序を設定します。

- ステップ 1** [設定 (Configuration)] > [プラグアンドプレイ (Plug and Play)] > [コントローラ自動プロビジョニング (Controller Auto Provisioning)] を選択し、左側のサイドバーのメニューから [設定 (Setting)] を選択します。
- ステップ 2** 該当する検索キーをクリックして強調表示し、[Move Up] または [Move Down] ボタンを使用して、検索キーの優先順位を変更します。
- ステップ 3** [Save] をクリックして、変更を確定します。

AP オンボーディング プロファイルの設定

AP が ME コントローラに参加し、検出されると、Prime Infrastructure では、AP を自動的にプロビジョニングできます。AP オンボーディング機能は、このように検出した AP で AP 名および AP グループを自動的に設定します。このプロセスでは、Prime Infrastructure の AP 名および他のコンフィギュレーションパラメータを設定する必要性が削除されるため、クライアントとして機能します。Prime Infrastructure は AP オンボーディング プロファイルを使用して、PI の AP を事前に設定します。

AP オンボーディング サービス プロセス

Prime Infrastructure が新しい AP を検出した場合、または既存の AP との関連性を検出した場合は、この特定の AP のアクティブなオンボーディングプロファイルが存在するかどうかをチェックします。アクティブなプロファイルが検出されると、Prime Infrastructure は次の手順を実行します。

1. プロファイル変更を [処理中 (in-progress)] とマークします。
2. プロファイルの AP 名を設定します。
3. オンボーディング プロファイルに記載されている AP テンプレートを展開します。
4. すべての AP テンプレートが展開されると、プロファイルは完了とマークされ、ステータスが成功または失敗に設定されます。

関連トピック

[AP オンボーディング プロファイル グループの作成](#) (19 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの編集](#) (20 ページ)

[AP オンボーディング プロファイルの削除](#) (21 ページ)

AP オンボーディング プロファイル グループの作成

単一の AP オンボーディング プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ 2 [プロファイルを追加 (Add Profile)] をクリックします。

ステップ 3 次の必要な詳細情報を入力します。

- [プロファイルグループ (Profile Group)] (デフォルトでは割り当てなし)
- [イーサネット MAC アドレス/シリアル番号 (Ethernet MAC Address/ Serial Number)]
- [AP 名 (AP Name)] : AP が検出されたときに AP に対して設定する名前。
- [コントローラの選択 (Controller Selection)] : AP がこのコントローラに参加する場合のみ、このプロファイルを適用します。このような制限をしない場合は、[任意 (Any)] を選択します。
- [AP テンプレート (AP Template)] : AP にプッシュする AP テンプレートの名前。AP テンプレートは 3 つまで選択できます。
- [プロファイルモード (Profile Mode)] (デフォルトで有効)

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの一括作成

AP オンボーディング プロファイルを一括アップロードの .csv ファイルで作成するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。
- ステップ 2 [新規プロファイル (New Profile)] > [一括追加 (Bulk Add)] の順にクリックします。
- ステップ 3 [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックしてウィザードを開きます。必要な .csv ファイルまで移動して選択します。
[サンプルCSVのダウンロード (Download Sample CSV)] をクリックして、サンプル .csv ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4 既存のエントリを上書きするには、[既存のエントリを上書き (Override Existing Entries)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの編集

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。



- (注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは編集または変更できません。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。
- ステップ 2 関連するプロファイル グループをクリックします。
- ステップ 3 編集するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。
- ステップ 4 [プロファイルの編集 (Edit Profile)] をクリックします。
複数のプロファイルを選択している場合、[AP名 (APName)] および [プロファイルモード (Profile Mode)] は編集できません。
- ステップ 5 必須フィールドを編集して [保存 (Save)] をクリックします。

AP オンボーディング プロファイルの変更

プロファイル モードを編集、複製、展開、または変更するには、次の手順に従います。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ2 関連するプロファイル グループをクリックします。

ステップ3 変更するプロファイル (1 つまたは複数) を選択します。

ステップ4 次のタスクから選択します。

- [プロファイルの複製 (Duplicate Profile)] : プロファイルを複製します。
(注) 複数のプロファイルを一斉に複製することはできません。
- [プロファイルの削除 (Delete Profiles)] : プロファイル (1 つまたは複数) を削除します。
- [プロファイルの編集 (Edit Profiles)] : プロファイル (1 つまたは複数) を編集します。
- [プロファイルモード/状態の変更 (Change Profile Mode/Status)] : プロファイル モードを [有効 (Enable)]、[保留中 (Pending)]、または [無効 (Disable)] に変更します。
(注) プロファイルモードを [完了 (Completed)] に変更することと、状態が [進行中 (in-progress)] であるプロファイルのプロファイル モードを変更することはできません。
- [展開 (Deploy)] : プロファイルを展開します。

AP オンボーディング プロファイル グループの削除

既存の AP オンボーディング プロファイル グループを削除するには、次の手順に従います。



- (注) プロファイルの状態が [進行中 (in-progress)] である場合、そのプロファイルは削除できません。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレステクノロジー (Wireless Technologies)] > [AP オンボーディング プロファイル (AP Onboarding Profile)] の順にクリックします。

ステップ2 削除するプロファイル グループを選択します。

ステップ3 [プロファイルグループの削除 (Delete Profile Groups)] をクリックします。

9800 シリーズ構成モデルに関する情報

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ は、さまざまなタグ (rf タグ、ポリシー タグ、サイトタグ) を使用して、ワイヤレス コントローラ の設定を簡素化します。アクセス ポイントでは、タグ内に含まれているプロファイルから設定が導出されます。

プロファイルは、特定のターゲットに適用される機能固有の属性とパラメータの集まりです。設定のターゲットとなるのは、AP、無線、および WLAN です。Rf タグには無線プロファイルが、ポリシータグには flex-profile と ap-join-profile が、ワイヤレスタグには WLAN プロファイルとポリシー プロファイルが、それぞれ含まれています。

新しい設定モデル (flexconnect モード) は、たとえば小売店舗やキャンパスなど、WLAN が同じである地理的に分散したサイトを中央のコントローラで管理するのに役に立ちます。ローカルの展開またはトポロジに基づいてネットワークと無線のプロファイルに多少の変更が生じるだけです。

表 2: Catalyst 9800 シリーズ設定のワークフロー

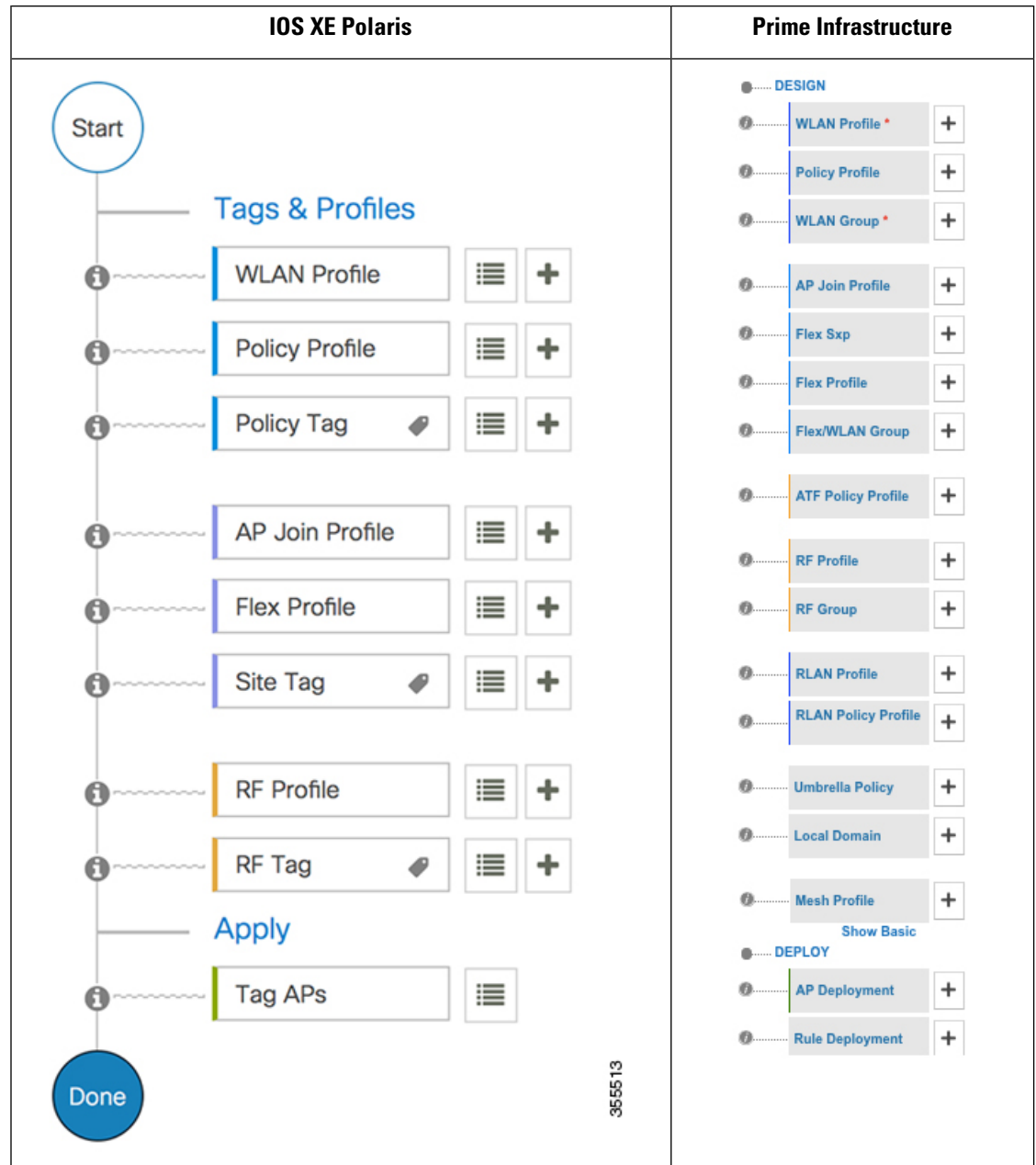


表 3: IOS XE Polaris と Prime Infrastructure 間の UI 構造のマッピング

IOS-XE Polaris	Prime Infrastructure
ポリシー タグ	<ul style="list-style-type: none"> • WLAN グループ • FLEX WLAN グループ(Prime Infrastructure のみ) <p>Flex プロファイルと WLAN プロファイルのマッピングを保存します。これは、flex ベースの展開で役立ちます。</p>
RF タグ	RF プロファイル
サイト タグ	<p>AP 展開と AP 参加プロファイル</p> <p>AP 展開名は、次を使用してデバイスのサイト タグを作成するために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Flex ベース展開の AP 参加プロファイルと Flex WLAN グループ • 非 Flex ベース展開の AP 参加プロファイルと WLAN グループ

ポリシー タグ

ポリシー タグは、WLAN プロファイルからポリシー プロファイルへのマッピングを構成します。WLAN プロファイルは、WLAN の無線特性を定義します。ポリシー プロファイルは、クライアントのネットワーク ポリシーとスイッチング ポリシーを定義します (AP ポリシーも構成する Quality of Service (QoS) は除きます)。

ポリシー タグには WLAN ポリシー プロファイルのマップが含まれています。そのようなエントリーはポリシー タグごとに 16 個あります。マップ エントリーの変更は、WLAN プロファイルとポリシー プロファイルのステータスに基づいて影響を受けます。たとえば、マップ (WLAN1 および Policy1) がポリシー タグに追加された場合、WLAN プロファイルとポリシー プロファイルの両方が有効になっていると、その定義がポリシー タグを使用して AP にプッシュされます。ただし、これらのいずれかが無効状態になっている場合には、定義は AP にプッシュされません。同様に、WLAN プロファイルがすでに AP によってブロードキャストされている場合は、ポリシー タグでコマンドの no 形式を使用して削除できます。

サイト タグ

サイト タグはサイトのプロパティを定義するもので、flex プロファイルと AP join プロファイルが含まれています。対応する flex またはリモート サイトに固有の属性は、flex プロファイルの一部となります。flex プロファイルとは別に、サイト タグは物理サイトに固有の属性も構成します (そのため、再利用可能なエンティティであるプロファイルの一部にすることはできま

せん)。たとえば、効率的なアップグレードのためのマスター AP のリストは、flex プロファイルの一部ではなくサイト タグの一部になります。

flex プロファイル名または AP プロファイル名がサイト タグで変更された場合、AP は、Datagram Transport Layer Security (DTLS) セッションを切断することによってコントローラへの再参加を強制されます。サイト タグが作成されると、AP プロファイルと flex プロファイルはデフォルト値 (default-ap-profile と default-flex-profile) に設定されます。

RF タグ

RF タグには IEEE 802.11a および IEEE 802.11b の RF プロファイルが含まれています。デフォルトの RF タグにはグローバル設定が含まれています。どちらのプロファイルにも、それぞれの無線についてグローバル RF プロファイルの同じデフォルト値が含まれています。

プロファイル

プロファイルは、特定のターゲットに適用される機能固有の属性とパラメータの集まりです。設定のターゲットとなるのは、AP、無線、および WLAN です。プロファイルは、タグ全体で使用できる再利用可能なエンティティです。プロファイル (タグで使用されます) は、AP またはそれに関連付けられているクライアントのプロパティを定義します。

WLAN プロファイル

WLAN プロファイルは、同じまたは異なるサービスセット識別子 (SSID) で設定されます。SSID は、コントローラがアクセスするための特定の無線ネットワークを識別します。同じ SSID で WLAN を作成すると、同じ無線 LAN 内で異なるレイヤ 2 セキュリティ ポリシーを割り当てることができます。

同じ SSID を持つ WLAN を区別するには、各 WLAN に対して一意のプロファイル名を作成します。同じ SSID を持つ WLAN には、ビーコン応答とプローブ応答でアドバタイズされる情報に基づいてクライアントが WLAN を選択できるように、一意のレイヤ 2 セキュリティ ポリシーが設定されている必要があります。スイッチング ポリシーとネットワーク ポリシーは WLAN 定義の一部ではありません。

ポリシー プロファイル

ポリシー プロファイルは、広義にはネットワーク ポリシーとスイッチング ポリシーで構成されます。ポリシー プロファイルはタグ全体にわたって再利用可能なエンティティです。AP またはコントローラに適用されるクライアントのポリシーとなっているものはすべて、ポリシー プロファイルに移動されます。たとえば、VLAN、ACL、QoS、セッションタイムアウト、アイドルタイムアウト、AVC プロファイル、bonjour プロファイル、ローカルプロファイリング、デバイス分類、BSSIDQoS などが該当します。ただし、WLAN のワイヤレス関連のセキュリティ属性と機能はすべて、WLAN プロファイルの配下にグループ化されます。

flex プロファイル

flex プロファイルには、flex グループの一部となっている属性が含まれています。ただし、ポリシー属性はポリシープロファイルとともにグループ化されます。flex プロファイルにはリモートサイト固有のパラメータも含まれています。たとえば、EAP プロファイル (AP がロー

カルRADIUS サーバ情報の認証サーバとして機能する場合に使用可能)、VLANとACLのマッピング、VLAN名とIDのマッピングなどです。

AP join プロファイル

デフォルトの AP join プロファイルの値には、グローバル AP パラメータと AP グループ パラメータが設定されます。AP join プロファイルには、CAPWAP、IPv4 および IPv6、UDP Lite、ハイ アベイラビリティ、再送信設定パラメータ、グローバル AP フェールオーバー、HyperLocation 設定パラメータ、Telnet および SSH、11u パラメータなどのパラメータが含まれています。

RF プロファイル

RF プロファイルには、AP の共通の無線設定が含まれています。RF プロファイルは、AP グループに属するすべての AP に適用され、そのグループ内のすべての AP に同じプロファイルが設定されます。

AP の静的な関連付け

AP を静的に設定できるのは、ポリシータグ、サイトタグ、および RF タグを使用した場合のみです。AP はイーサネット MAC アドレスによって識別され、AP およびタグへの関連付けは設定としてコントローラに保存されます。

AP タグの変更

AP タグを変更すると、DTLS 接続がリセットされ、AP が強制的にコントローラに再参加します。設定でタグが1つだけ指定されている場合は、他のタイプにデフォルトタグが使用されます。たとえば、ポリシータグのみが指定されている場合は、サイトタグと RF タグに対して default-site-tag と default-rf-tag が使用されます。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Cisco Umbrella ポリシーのローカル ドメインの設定

OpenDNS は、DNS トラフィックの分割をサポートしているため、管理者は目的の DNS に希望の DNS サーバ(たとえば、企業内にある DNS サーバ)に直接送信し、OpenDNS クラウドをバイパスすることができます。

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[ローカル ドメイン (Local Domain)] をクリックして使用可能なプロファイルを表示し、編集するプロファイルをクリックします。または、+ アイコンをクリックして新しいを作成します。
- ステップ 3 [Regex パターン (Regex Pattern)] 領域で、+ アイコンをクリックして新しいローカル ドメインを作成します。

ステップ4 URL を入力して保存します。

このローカル ドメインを Umbrella ポリシーに追加する必要があります。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Cisco Umbrella ポリシーの設定

Cisco Umbrella は、クラウドで提供されているネットワーク セキュリティ サービスです。マルチウェアからデバイスを保護し、リアルタイムで侵害を阻止します。

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。

ステップ2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[Umbrella ポリシー (Umbrella Policy)] をクリックして使用可能なプロファイルを表示し、編集するプロファイルをクリックします。または、+ アイコンをクリックして新しいを作成します。

ステップ3 必要な詳細を入力または編集し、[ローカル ドメイン (Local domain)] ドロップダウンメニューからローカル ドメインを選択します。

OpenDNS ダッシュボードからデバイスのトークンを取得し、WLC に適用されていることを確認する必要があります。

(注) Prime Infrastructure 3.5 はグローバルポリシーのみをサポートします。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに Flex Sxp プロファイルを設定します

ステップ1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。

ステップ2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[Flex Sxp] をクリックして使用可能なプロファイルを表示し、編集するプロファイルをクリックします。または、+ アイコンをクリックして新しいを作成します。

ステップ3 必要な詳細を入力または編集して保存します。

この Flex Sxp プロファイルを Flex プロファイルにマッピングする必要があります。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに Flex プロファイルを設定します

-
- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[Flex プロファイル (Flex Profile)] をクリックして使用可能なプロファイルを表示し、編集するプロファイルをクリックします。または、+ アイコンをクリックして新しく作成します。
- ステップ 3 必要な詳細を入力または編集します。
- ステップ 4 Flex Sxp プロファイルをマッピングまたは変更するには、[アドバンスト (Advanced)] > [全般 (General)] に移動し、[Flex Sxp プロファイル (Flex Sxp Profile)] ドロップダウンメニューからプロファイルを選択します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Airtime Fairness の設定

Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの Airtime Fairness ポリシーの作成

-
- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[ATF ポリシー プロファイル (ATF Policy Profile)] をクリックして使用可能なポリシーを表示するか、+ アイコンをクリックして新しいを作成します。既存の ATF ポリシーをクリックして編集します。
- ステップ 3 必要な詳細を入力または編集します。
- ステップ 4 [Save (保存)] をクリックします。
- (注) このポリシーをポリシー プロファイルにマッピングする必要があります。
-

ポリシー プロファイルへの Airtime Fairness ポリシーの追加

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[ポリシー プロファイル (Policy Profile)] をクリックして使用可能なポリシーを表示するか、+アイコンをクリックして新しいを作成します。クリックして、既存のポリシーを編集します。
- ステップ 3 [アクセス ポリシー (Access Policies)] をクリックします。
- ステップ 4 [電波時間正常性ポリシー (Air Time Fairness Policies)] で、2.4 GHz および 5 GHz 帯域のポリシー プロファイルを選択します。
両方の帯域に対して個別のポリシーまたは同じポリシーを選択できます。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

RF プロファイルで ATF ポリシーを有効にする

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
 - ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[RF プロファイル (RF Profile)] をクリックして使用可能なポリシーを表示するか、+アイコンをクリックして新しく作成します。既存のプロファイルをクリックして、編集します。
 - ステップ 3 [アドバンスト (Advanced)] > [Air Time Fairness] をクリックします。
 - ステップ 4 必要に応じて、動作モードを選択します。
 - 無効: WLC で ATF を無効にします。
 - 適用対象: WLC に ATF ポリシーを適用します。
 - モニタ: ネットワークの通信時間の使用状況を監視する
- (注) メッシュ AP の場合、[通信時間割り当ての上書き (override Airtime Allocation)] を有効にすることによって、WLAN の重量設定を上書きするように扱えます。上書きを有効にする場合は、このようなシナリオの重量を入力できます。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのリモート LAN (RLAN) の設定

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのリモート LAN (RLAN) プロファイルの作成

Prime Infrastructure のリモート LAN (RLAN) 機能は、有線クライアントがワイヤレス クライアントとしてネットワークに参加するためのサポートを提供します。WLC は有線クライアントを認証します。有線クライアントが正常に参加すると、LAN ポートは設定に応じて、中央スイッチング モードまたはローカル スイッチング モードでトラフィックを切り替えることができます。

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。

ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[RLAN プロファイル (RLAN Profile)] をクリックして使用可能なポリシーを表示するか、+アイコンをクリックして新しいを作成します。クリックして、既存のポリシーを編集します。

ステップ 3 必要な詳細を入力または編集して [保存 (Save)] をクリックします。

(注) このプロファイルを WLAN グループにマッピングする必要があります。

Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのリモート LAN (RLAN) ポリシー プロファイルの作成

ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。

ステップ 2 [アドバンストの表示 (Show Advanced)] をクリックし、[RLAN ポリシー プロファイル (RLAN Policy Profile)] をクリックして使用可能なポリシーを表示するか、+アイコンをクリックして新しいを作成します。クリックして、既存のポリシーを編集します。

ステップ 3 必要な詳細を入力または編集して [保存 (Save)] をクリックします。

アクセス ポリシー、QoS および AVC、および高度なパラメータを設定することもできます。

(注) このプロファイルを WLAN グループにマッピングする必要があります。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに WLAN グループを設定します

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [WLAN グループ (WLAN Group)] をクリックして、使用可能なグループを表示し、編集するグループをクリックします。または、+アイコンをクリックして新しいを作成します。
- ステップ 3 [WLAN マッピング (WLAN Mapping)] タブで、それらをマッピングする WLAN プロファイルとポリシー プロファイルを選択します。
- ステップ 4 [ポリシーにマップ (Map To Policy)] をクリックします。
- ステップ 5 [RLAN マッピング (RLAN Mapping)] タブで、プロファイルをアクティブにするポートを選択します。
- (注) これらのポートが AP で有効になっていることを確認します。
- 軽量アクセスポイント > AP パラメータ > AP LAN ポート設定。

Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ上でルールを展開する

- ステップ 1 [設定 (Configuration)] > [ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)] > [Cisco Catalyst 9800 設定 (Cisco Catalyst 9800 configuration)] をクリックします。
- ステップ 2 [ルール展開 (Rule Deployment)] をクリックし、使用可能なポリシーを表示するか、+アイコンをクリックして新しく作成します。既存のルールをクリックして、編集します。
- ステップ 3 必要な詳細を次のフィールドに入力します。
- **ルール名:** 展開ルールの名前を入力します。
 - **AP 名に含む:** このルールが展開されている AP を選択する基準となる正規表現 (regex) を入力します。
 - **展開モード:** 展開モード (flex ベースまたは非 flex ベース) を選択します。
- ステップ 4 Flex プロファイル、WLAN グループ、AP 参加プロファイル、および RF グループをそれぞれのドロップダウンメニューから選択します。
- ステップ 5 [Save (保存)] をクリックします。
- ステップ 6 [ルールの展開 (Rule Deployment)] を再度クリックすると、使用可能なルールのリストが表示されます。
- ステップ 7 展開するルールを選択し、[展開 (Deploy)] をクリックします。

ステップ 8 使用可能な展開オプションから選択し、**[展開 (Deploy)]** をクリックします。

Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに展開されているルールを表示するには、**[設定 (Configuration)]** > **[ネットワーク (Network)]** > **[ネットワーク デバイス (Network Devices)]** > **[デバイス グループ (Device Groups)]** > **[デバイス タイプ (Device Type)]** > **[クラウドの Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ (Cisco Catalyst 9800 Series Wireless Controller for Cloud)]** > . Catalyst 9800 シリーズ デバイスをクリックし、**[設定 (Configuration)]** > **[システム (System)]** > **[ルール展開 (Rule Deployment)]** をクリックします。

Cisco AireOS コントローラ設定を Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラに変換する

AireOS Config Translator を使用すると、レガシー Cisco WLC から Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラへのシームレスな移行が可能になります。



- (注)
- この機能は、AireOS バージョン 8.8 以降を実行している Cisco WLCs で動作します。
 - WLC の設定が 5000CLI よりも大きい場合は、変換プロセスに時間がかかることがあります。
 - AireOS 設定変換ツールを使用して AireOS 設定を変換する際に、Catalyst 9800 コントローラにすでに存在するものと同じ ID を持つ WLAN がある場合、それらは作成されません。

始める前に

次の基準が満たされていることを確認してください。

- レガシー (AireOS) WLC と Catalyst 9800 シリーズ コントローラの両方が、すでにプライム インフラストラクチャで管理されている必要があります。
- 有効な SNMP および CLI クレデンシャルを使用して、両方のデバイス (AireOS および Catalyst 9800 シリーズ) をプライム インフラストラクチャに追加する必要があります。

ステップ 1 **[設定 (Configuration)]** > **[ワイヤレス テクノロジー (Wireless Technologies)]** > **[AireOS Config Translator (AireOS Config Translator)]** をクリックします。

ステップ 2 **[ソースの選択 (Choose source)]** ページで、**[ソース AireOS デバイスの選択 (Select a Source Aireos Device)]** リストから AireOS デバイスを選択します。

ステップ 3 **[Target 9800 デバイスの選択 (Select a Target 9800 Device)]** リストから適切な Catalyst 9800 シリーズ コントローラを選択します。

ステップ 4 [設定の取得 (Fetch Config)] をクリックします。

これにより、送信元 WLC から実行設定が取得されます。

ステップ 5 [設定の確認と更新 (Verify And Update Config)] ページで [移行 (Translate)] をクリックします。

これにより、取得された AireOS 設定が Catalyst 9800 シリーズに変換されます。変換された設定は次のように分類されます。

1. サポート済み – 正常に変換されている CLI
2. サポートされていない: サポートされていないまたは変換されなかった CLI
3. 該当なし: 変換が不要な CLI

ステップ 6 サポートされている設定 (強調表示されている) で、ホスト名、パスワード、および事前共有キーを変更します。

ステップ 7 [承認して展開 (Accept to deploy)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 [Deploy] をクリックします。

ステップ 9 移行する AP を選択し、[移行 (Migrate)] をクリックします。

結果 :

- プライマリ コントローラの名前と IP アドレスが設定されます。
- 同期は、Prime Infrastructure で自動的にトリガーされます。

関連トピック

[Prime Infrastructure へのデバイスの追加](#)